

會 務

第 21 卷第 6 號 昭和 10 年 6 月

役 員 會

第 5 回役員會 (昭 10・5・13)

出席者： 青山會長 草間，平井兩副會長 小野，加藤，金森，佐藤，堀越，藤井，古川，宮長，山田の各常議員那波，名井の各前會長 平山振興委員會 第二部委員長

決議並に報告事項

(1) 第 3 回工學會大會準備委員會の議事を報告せり。

(2) 日本學術振興會より維新以前日本土木史編纂出版に對し補助金決定の通知あり之を報告せり。

(3) 6 月開催の講演會次第を次の通り報告せり。

(イ) 講演： 昭和 9 年關西風水害に就て

中央電氣技師 東京帝國大學教授 理學博士 藤原吹平君

(ロ) 映畫： 第 2 吉野川橋梁ケーブル・エレクトロニクス

鐵道省岡山建設事務所編纂

(ハ) 期日： 6 月 5 日とし講演者の都合を聴取し決定すること

(4) 臺灣震災調査委員會設置を決議しその委員の選定依頼は理事一任とす，尚必要に應じ視察員を派遣することとせり。

(5) 入退會の件

東司貫一君外 22 名を會員に，井上義三君外 64 名を准員に，安部松之助君外 52 名を學生員に入會を承認し，杉本培吉君外 2 名を准員より會員に，安部康久君外 25 名を學生員より准員に轉格を承認せり。

編 輯 委 員 會

第 6 回編輯委員會 (昭 10・6・3)

出席者： 藤井編輯長，岡田，龜田，永田，福田，星野の各委員

協 議 事 項

(1) 第 21 卷第 5 號所載論説報告に對する討議依

頼先を決定す。

(2) 第 21 卷第 5 號所載工事寫眞，論説報告，彙報及び參考資料の謝禮を決定す。

(3) 第 21 卷第 6 號に下記論文を追加す。

彙報： 新設計のコンクリート道床 (會，工博，堀越一三)

(4) 第 21 卷第 7 號登載論文を下記の通り決定す。

講演： 昭和 9 年關西風水害に就て (理博，藤原吹平) 論説報告： 彈性變位と固體摩擦 (會，工，前橋俊一)，

佐賀線筑後川橋梁浮船式構桁架設工事に就て (會，工，石田啓二郎，會，工，高原芳夫)，地下水流の理論に關する新方法 (准，工，本間仁)，地盤の耐荷試験に就て (准，工，石田武雄)

討議： 連彈性法則の平面剛矩形構解析への適用 (著者へ照會中) (會，石川時信)，平齊線鐵江橋梁の吊出式鈎桁架設法に就て (著者へ照會中) (會，眞鍋龍彦)

特許抄録： 建築構材骨組法外 7 編及び登録實用案 19 件

參考資料：

應力 壓縮を受けたる矩形薄板の屈屈と破壊 (最上)，格點に質量を有するトラスの自由振動 (最上)，鋼定に對する横歪の影響 (傍島)

水理 海峡に於けるセイシユ (本間)，昇降式水門扉の下の射出水に就て (本間)

材料 海中に於けるクレオソート注入杭の壽命 (藤)

コンクリート 鋼とコンクリートからなる谷床 (糸川)，コンクリート暗渠の壽命 (糸川)，コンクリートの剪斷強さに就て (奥田)

堰堤 西班牙に於ける最近の堰堤に就て (岡崎)，堤下流の侵蝕防止 (岡崎)

上水道 垂直繼目を有するコンクリート配水塔 (米屋)，濾過能率の一計算法 (玉置)

橋梁及構造物 高架橋の剛節骨組の近似解法 (吉藤)，Brooklyn 橋に用ひられるアルミニウムのトラス及び床 (奥田)，アーチの彈性變形及び斷面の變化を考慮に入れたる鈎桁の應力の簡單な計算式 (富田)，補剛材の有無による I 桁の載荷と撓の關係 (傍島)

鐵道 ガソリン・タイタンパー (高橋)

隧道 軟質地盤中に於ける困難なる隧道工事 (高島)

(5) 寄稿に關する注意事項に下記を追加する事とせり。

文體 文體は文章的口語體とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當に字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。

論說報告は邦文に限る。

土木學會振興委員會

第3部會第2同委員會(昭10・5・13)

出席者：伊藤、小澤、岡崎、太田尾、千秋、立花、南保、野坂、原田、船越の各委員、須之内、奥田兩君、柴原書記長、小野寺庶務、五十嵐編輯

野坂孝忠君を委員長並に幹事に推し下記事項を協議せり。

(1) 2, 3 委員を増員すること。

(2) 第3部會は次の要綱に依り議事を進むること。

(イ) 土木學會をして實際問題に即し社會的に進出活躍せしむること。

(ロ) 土木學會は技術全般の問題、經濟、行政問題を取扱ひ指導的立場から之等の事業を遂行すること。

(ハ) 土木學會により以上の權威と實行力を有せしめんとす。

(ニ) 土木技術者の素質向上と一般社會への認識宣揚。

(ホ) 土木學會誌を興味あるものとする。

(カ) 要綱に基き各委員の意見を參照し次の2案を協議し、就ては次回の會合にて協議することとせ

(1) 土木學會誌に社會、經濟、行政等の問題をも掲載すること。

(2) 土木學會誌を2種に別け第1部、第2部とすること。

第2部會第2同委員會(昭10・5・14)

出席者：平山委員長、河西、榎部、金子、久保、高橋、田中、徳善、三浦、宮本、山口、山下の各委員、金森、藤井の常議員、柴原書記長、小野寺庶務

協議事項

(1) 臺灣震災調査の爲、本會より視察員1名を急派

することを理事會へ提案すること。

(2) 此後に於ける天災地變の際は即時視察員を現地へ派遣し得る様適當なる處置を構じ置くこと。

(3) 現常議員内田、加藤、金森、佐藤、鈴木、藤井6君の内2名以上を第2部會へ出席を乞ふこと。

(4) 旅順工科大学へ土木工學科の設置を建議し徹底を期すること。

(5) 震災豫防評議會及び學術研究會議の土木關係評議員及び會員は可成現職にある適任者を以てすること。

(6) 測地委員會及び資源局用語調査委員に土木學會代表の委員を參加せしむる様盡力すること。

(7) 各種國際技術會議の消息を知るためその關係者にニュースの提供を依頼すること、諸技術會議次の如し。

應 用 力 學 會 議	動 力 會 議 (大 堰 堤 委 員 會)
道 路 會 議	材 料 試 驗 會 議
鐵 道 會 議	都 市 計 畫 會 議
航 海 會 議	國 際 測 量 會 議
橋 梁 構 造 物 會 議	

(8) 前會長及名譽會員を顧問とし別に諮問機關たる顧問會を設置し定款第34條を改正すること。

(9) 規則自第16條至第20條を改正し各種事業別に部を設け理事及常議員を責任者として配置し部長次長及幹事となし且各部専門委員を依拠し擔當事業を畫策實行せしむること。

事業部門の分類を次の如く定む。

(1) 總務部。講演會、講習會、座談會、討論會、見學視察旅行、職業紹介、他學協會との連絡(外國をも含む)東亞工業會議、國際會議との提携、土木關係來朝者に對する斡旋等

(2) 法制部。土木行政の統一、土木士法制定、土木技術者の任用範圍擴大、技術者の貴族院議員推薦等

(3) 調査部。學術調査、災害調査、用語調査、標準示方書制定、標準契約書制定、各種規格制定、學術相談等

(4) 組織部。會員入會勸誘、地方委員關係等

(5) 會計部。會計及び事業資金募集等

(6) 編輯部。會誌及び他部門の研究調査に係る諸出版等

(10) 日滿支其の他東洋各國に於ける土木關係者の融和連絡を圖る機關として學會内に東洋部を設置すること。

東洋部の機構次の如し

(1) 東洋諸國より日本への留學生誘致指導及歸國後の連絡後援

(2) 東洋諸國特に滿洲國の資源開發に關する調査

(3) 東洋諸國との技術視察員の交換

以上協議事項中第1項の臺灣震災視察員派遣の件は早急を要するを以て直ちに理事會へ提案し其他に就ては次回6月7日會合に於て慎重審議を重ねることとせり。

第3部會第3回委員會(昭10・5・31)

出席者：野坂委員長 伊藤、小澤、岡崎、太田尾、立花、南保の各委員、奥田君、柴原書記長、小野寺庶務、五十嵐編輯

次の事項を協議決定し次回の會合を6月21日開催することに申合せり。

土木學會誌を第1部第2部の2種とし

第1部には論說報告及び討議を掲載し年4回乃至6回發行とし

第2部には會務、會報、特許抄録、參考資料、講議、講演、時論、報文、會員の頁、新刊紹介、職業紹介、ニュース、雜録、等を掲載し毎月發行とすること

第2部會第3回委員會(昭10・6・7)

出席者：平山委員長、内海、河西、樫部、榎木、田中、徳善、三浦、宮本、山口、山下の各委員、内田、金森、藤井の各常議員、柴原書記長、小野寺庶務主任

協議事項

(1) 第2回委員會に於て協議したる各事項に就き検討し次の成案を得之を役員會へ提案することとす。

(i) 日滿支其の他東洋各國に於ける土木關係者の融和連絡を圖る機關として土木學會内に東洋部を設置すること。

(ii) 東洋部の事業は大體次の通りとす。

(イ) 東洋諸國より日本への留學生誘致指導及び歸國後の連絡後援。

(ロ) 東洋諸國特に滿洲國の資源開發に關する調査。

(ハ) 東洋諸國との技術視察員の交換、技術上の規格統一並に連絡統制等

(iii) 東洋部設置趣意書

日本、滿洲、支那3國は同文同種の同胞であり、共存共榮の原則の上に立つて互にその長を採り短を補ひ眞に協力互助の實を擧げなければならぬ事は議論の餘地がないが、そのための政治的聯盟、經濟的聯盟、軍事的聯盟の外に緊密なる技術的聯盟を結成する事は資源開發文化増進の目的上極めて肝要なるを確信する。

わが國は滿支兩國に比すれば近代の學問技術の發達に於て一日の長があり、從來兩國からわが國に留學する學生の數も決して尠くないに係らず兩者間の連絡が密接でないと同時にわが國の上下何れも滿支兩國の將來を双肩に擔ふ之等の優秀なる留學生を遇する途を誤り且つその歸國後の連絡後援の如きは殆んど捨て顧みられないがために折角の留學生をして却つてわが國から背反せしめる現状にある事は日滿支3國將來のために遺憾に堪へない。而して現時の國際政局を以てすれば獨り滿支兩國のみならずわが國はシヤム、印度、フィリピン、アフガニスタン等東洋諸國と緊密なる提携を保つて鞏固なる共存共榮のブロックを結成するに極めて急なるを感ずる。そのための政治工作と併行して廣汎なる技術的提携の力を擴充する事はわれ等が當面の職責である。是れ即ち茲にわれ等が文化的建設使徒として東洋永遠の平和、永遠の繁榮のために土木會内に東洋部を設置する所以である。

規 約

1. 社團法人土木學會内に東洋部を置く。
2. 學會は東洋各國よりの留學生の誘致、指導、歸國後の連絡、後援に盡力す。
3. 學會は東洋各國よりの技術關係視察者のために必要なる斡旋の勞を取る。
4. 學會は東洋各國の資源開發、文化建設のために必要なる調査研究に助力す。
5. 學會は特に滿洲國の資源開發、文化建設のための學術的調査を行ひ滿洲國關係當局、滿鐵會社その他に必要な謀策をなす。
6. 學會は東洋ブロックに於ける技術上の規格統一並に連絡統制に助力す。

7. 學會は東洋各國との間の技術關係交換視察を行ふ。
8. 學會は前記の目的を達するため各大學、他學會及び協會その他必要なる機關との提携連絡を計る。
- (2) 次回の會合は6月27日開催することゝす。

維新以前日本土木史編纂委員會

第28回委員會 (昭10・5・28)

出席者： 眞田副委員長 名井、那波、前川、茂庭、赤木、板井、眞島、高柳、江澤の各委員、渡邊彌託

本月の蒐集調査狀況の報告を終り下記事項を決議せり。

明治以前日本土木史の巻頭に徳川家達公に題字を依頼方促進のこと

日本工學會記事

○昭和10年5月22日午後4時30分より日本工學會俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し下記事項を決議せられ次で一般會務の報告並に懇談會ありたり。

(1) 巴里に於て開催の萬國鑛業會議に本會より代表派遣方同會議より申越せるを以て本會より東京帝國大學教授三島徳七君を代表として派遣すること並に參加費用として金1000圓を同君に補助すること。

(2) 萬年會より昭和10年度以降3箇年間に總額...を工業獎勵資金として寄附すべき旨申越あり...を受諾すること。

5. ...元手當及び賞與の件は理事長に一任すること。

土木學會關西支部記事

○昭和10年5月20日午後5時より大阪市中央電氣俱樂部に於て第4回役員會を開催し支部長永井専三君外9名出席下記事項を協議せり。

- 6月通俗講演會の件、9月開催見學會の件、
10月開催土木工學研究會の件、8月中事業の件、
春季見學會費精算の件、平瀬三雄君より寄附の件、

前幹事長胸像贈呈の件。

その他の記事

○昭和10年5月13日午後4時30分より理事會を開催し青山會長外5君出席し土木圖書室設備、土木賞牌原型の件並に役員會議案に就き協議せり。

○昭和10年5月15日日本學術振興會へ維新以前日本土木史編纂出版に就きその實施方案並に援助金使用豫定計算書を提出せり。

○昭和10年5月17日午後0時より理事會を開催し青山會長外5君出席し次の事項に就き協議せり。

(1) 機械學會申出に係る水量測定規格制定委員會に本會委員として草間偉君を依頼すること。

(2) 臺灣震災調査委員會委員に本部草間偉君外6君臺灣地方堀田鼎君外6名を依頼することゝし委員長に草間偉君を、特別委員長に堀田鼎君を推すことゝせり。

(3) 臺灣震災地へ本會より視察員を派遣することゝし田中豊君又は山口昇君に出張を依頼することゝせり。

(4) 振興委員會第2部委員堀尾豐熊君轉任に付き阿曾沼均君を委員に依頼することゝせり。

(5) 其の他振興委員會第3部委員増員の件及び萬年會寄附に係る工業獎勵金交付等に関し協議せり。

○昭和10年5月28日服部報公會へ維新以前日本土木史編纂出版補助金申請書を提出せり。

○昭和10年5月31日講演會並に映畫會の開催を東京府及び隣縣在住全會員に通知せり。

○内務省地方土木主任官會議並に鐵道省所課長會議を招集せられたる機會に於て本會地方委員を昭和10年6月11日正午より丸ノ内三信ビル8階東洋軒に招待し午餐會を開催せり。出席者94名にして青山會長の感謝の詞と地方委員を代表して辰馬東京土木出張所長の答詞あり次で眞田維新以前日本土木史編纂副委員長より日本土木史編纂の経過及び史料蒐集の盡力に對し感謝の挨拶あり、午後1時40分盛會裡に散會せり。

○工業品規格統一調査會より照會に係る金屬材料抗張試驗片、同抗折試驗片及び金屬材料の機械的試験に關する術語の意義に關し昭和10年6月10日午後5時

より大河内、江橋、青木、田中の4君出席協議せり。
 ○昭和10年5月24日土木學會誌21卷第5號發行成規の手續を了し5月25日これを全會員に配布せり。

○昭和10年5月13日までに於て下記諸君を入會並に轉格の手續を了し名簿に登録せり。

入 會 の 部

會 員

氏 名	學 歴	勤 務 先
赤 司 貫 一 君	大 8 京 都 帝 大 工 學 部 土 木 科	都 市 計 畫 地 方 委 員 會
伊 吹 正 紀 君	昭 2 ” 土 木 科	内 務 省 新 潟 土 木 出 張 所
遠 藤 貞 一 君	大 7 攻 玉 社 工 學 校 研 究 科	内 務 省 土 木 局 鐵 道 救 災 係
黒 水 泰 治 君	大 5 東 京 工 科 學 校 土 木 科	新 京 特 別 市 公 署
小 村 宏 君	昭 6 北 海 道 帝 大 工 學 部 土 木 科	栃 木 縣 土 木 課
後 藤 秀 雄 君	大 15 關 本 高 工 土 木 科	前 本 縣 山 東 土 木 管 區 事 務 所
佐々木 齊 治 君	大 4 ” 土 木 科	鳥 取 縣 大 社 福 祿 修 築 事 務 所
中 田 勝 一 君	昭 5 北 海 道 帝 大 工 學 部 土 木 科	札 幌 治 水 事 務 所
田 中 直 行 君	大 13 關 本 高 工 土 木 科	前 本 營 林 局 利 用 課
戸 田 幾 君	” 15 名 古 屋 高 工 土 木 科	大 同 電 力 株 式 會 社 土 木 課
友 成 直 君	” 2 攻 玉 社 工 學 校 土 木 科	内 務 省 土 木 局 第 二 技 術 課
三 宅 永 行 君	昭 5 德 島 高 工 土 木 科	奈 良 縣 土 木 課
水 戸 部 民 藏 君	” 攻 玉 社 高 工 土 木 科	嶺 北 電 設 事 務 所
山 内 秀 夫 君	大 13 仙 臺 高 工 土 木 科	鐵 道 省 大 阪 改 良 事 務 所 神 戶 分 室
渡 邊 安 三 君	昭 4 工 手 學 校 土 木 科	滋 賀 縣 船 川 改 修 事 務 所
田 口 辰 造 君	大 14 關 本 高 工 土 木 科	奈 天 鐵 路 認 證 工 務 處 工 務 課
石 井 彌 壽 一 君	大 6 岡 山 縣 立 工 業 學 校 土 木 科	仁 川 土 木 出 張 所
上 田 一 郎 君	昭 2 京 都 帝 大 工 學 部 土 木 科	新 竹 州 鐵 道 改 良 事 務 所
碓 井 勇 次 郎 君	大 6 東 京 工 科 學 校 土 木 科	富 山 縣 電 氣 局 土 木 課
藤 野 確 君	大 3 關 本 高 工 土 木 科	鐵 道 局 工 務 處 工 務 課
前 橋 俊 一 君	大 6 東 京 帝 大 工 學 部 土 木 科	京 濱 電 氣 工 業 株 式 會 社
山 崎 慎 二 君	大 8 ” 土 木 科	仙 臺 高 等 工 業 學 校
山 田 信 次 君	昭 9 岡 山 縣 立 工 業 學 校 土 木 科	奈 天 鐵 路 認 證 工 務 處 工 務 課
准 員		
井 上 義 三 君	昭 7 關 本 高 工 土 木 科	香 川 縣 高 松 土 木 出 張 所
伊 東 三 郎 君	” 10 北 海 道 帝 大 土 木 科 門 部	機 賀 汽 油 軍 建 築 部
一 戸 信 直 君	” 9 日 大 工 學 部 土 木 科	香 川 縣 經 濟 部 土 木 課
入 江 謙 君	大 15 攻 玉 社 工 學 校 土 木 科	東 京 市 水 道 局 廣 張 設 計 課
泉 悟 策 君	昭 9 金 澤 高 工 土 木 科	廣 島 電 氣 株 式 會 社 土 木 部
大 畑 利 隆 君	昭 10 日 大 高 工 土 木 科	内 務 省 土 木 局 第 二 技 術 課
加 藤 輝 元 君	大 14 攻 玉 社 工 學 校 土 木 科	京 都 帝 國 大 學 土 木 教 室
笠 原 明 君	昭 10 名 古 屋 高 工 土 木 科	日 本 電 力 株 式 會 社
川 瀬 正 俊 君	昭 10 北 海 道 帝 大 工 學 部 土 木 科	皆 手 縣 經 濟 部 土 木 課
草 間 康 二 君	昭 10 東 京 ” 土 木 科	鐵 道 省 工 務 局 保 險 課
倉 山 俊 一 君	昭 7 ” 土 木 科	栃 木 縣 經 濟 部 土 木 課
小 橋 義 一 君	昭 10 京 都 土 木 科	鳥 取 縣 經 濟 部 土 木 課
小 牧 純 尙 君	昭 7 關 本 高 工 土 木 科	前 本 縣 山 東 土 木 管 區 事 務 所
古 賀 國 彦 君	” ” 土 木 科	江 原 道 江 陵 土 木 管 區
鴻 野 佐 八 君	昭 10 金 澤 高 工 土 木 科	日 本 電 力 株 式 會 社 土 木 部
近 藤 武 夫 君	” 日 大 門 部 土 木 科	内 務 省 理 貞 修 養 事 務 所
佐 藤 嵩 君	昭 9 金 澤 高 工 土 木 科	岡 山 縣 新 見 土 木 出 張 所
齊 藤 要 君	昭 2 岡 山 縣 立 工 業 學 校 土 木 科	京 都 帝 國 大 學 土 木 工 學 教 室
島 地 與 一 君	昭 9 三 重 高 等 林 業 土 木 科	京 都 帝 國 大 學 土 木 工 學 教 室
陶 山 襄 君	昭 8 日 大 工 學 部 土 木 科	内 務 省 東 京 土 木 出 張 所
諏 訪 芳 夫 君	昭 10 名 古 屋 高 工 土 木 科	朝 倉 縣 警 務 署 鐵 道 局 設 計 課
杉 野 進 君	昭 9 名 古 屋 高 工 土 木 科	大 阪 市 水 道 部 技 術 課
鈴 木 志 誠 君	昭 5 早 稻 田 高 工 土 木 科	神 戶 縣 磯 子 鐵 道 局 設 計 事 務 所
瀬 戶 政 章 君	昭 7 北 海 道 帝 大 工 學 部 土 木 科	東 京 市 土 木 局 鐵 道 管 理 課
田 中 辨 一 郎 君	昭 4 岩 倉 鐵 道 學 校 土 木 科	仁 川 土 木 出 張 所
田 中 吉 太 郎 君	昭 4 東 京 高 等 商 工 學 校 土 木 科	滋 賀 縣 船 川 工 區 事 務 所
高 橋 淺 一 君	昭 9 神 戶 高 工 土 木 科	吳 淞 軍 建 築 部
高 橋 要 君	昭 7 名 古 屋 高 工 土 木 科	香 川 縣 高 松 土 木 出 張 所
竹 田 巖 彦 君	大 14 臺 北 州 立 工 業 學 校 土 木 科	滋 賀 交 通 局 鐵 道 港 灣 課
津 曲 清 次 君	昭 2 攻 玉 社 工 學 校 土 木 科	内 務 省 土 木 局 第 二 技 術 課
辻 一 二 三 君	昭 2 南 滿 洲 工 業 專 門 學 校 土 木 科	錦 州 縣 鐵 道 設 計 事 務 所
辻 本 文 吾 君	昭 7 關 西 高 工 土 木 科	京 都 帝 國 大 學 土 木 工 學 教 室
豐 田 實 君	昭 9 關 本 高 工 土 木 科	廣 島 電 氣 株 式 會 社 土 木 部
西 田 捨 男 君	昭 7 日 大 門 部 土 木 科	滋 賀 縣 船 川 工 區 八 日 市 出 張 所
西 村 榮 作 君	昭 9 名 古 屋 高 工 土 木 科	鐵 道 第 二 聯 系
西 村 美 昭 君	昭 7 東 京 高 工 土 木 科	内 務 省 土 木 局 第 二 技 術 課
野 口 正 次 君	昭 10 仙 臺 高 工 土 木 科	内 務 省 滋 賀 川 維 修 事 務 所
野 田 稔 君	昭 8 日 大 工 學 部 土 木 科	富 山 縣 高 等 工 業 學 校
平 塚 武 夫 君	昭 9 南 滿 洲 工 業 專 門 學 校 農 業 土 木 科	新 瀋 陽 鐵 道 設 計 事 務 所
福 山 幹 夫 君	昭 10 北 海 道 帝 大 土 木 科 門 部	札 幌 鐵 道 局
藤 本 輝 文 君	” 神 戶 高 工 土 木 科	内 務 省 尾 道 港 灣 課
増 田 三 次 君	” ” 土 木 科	川 崎 鐵 道 局 經 理 部 營 繕 課
三 原 一 雄 君	昭 8 ” 土 木 科	大 阪 市 水 道 部 技 術 課
三 輪 銀 吾 君	昭 7 東 京 高 工 土 木 科	内 務 省 土 木 局 第 二 技 術 課
本 内 靜 夫 君	昭 10 仙 臺 高 工 土 木 科	八 幡 鐵 道 局 工 務 部 土 木 課
森 正 君	昭 9 關 本 高 工 土 木 科	前 本 市 土 木 課
森 副 雄 君	昭 8 ” 土 木 科	前 本 營 林 局 利 用 課
矢 崎 道 美 君	昭 8 京 都 帝 大 工 學 部 土 木 科	廣 島 電 氣 株 式 會 社 土 木 部
勇 内 英 次 君	昭 9 神 戶 高 工 土 木 科	日 本 電 力 株 式 會 社 認 證 設 計 所
渡 邊 有 友 君	昭 8 關 本 高 工 土 木 科	門 司 鐵 道 局 工 務 課 救 災 係
鎌 野 重 治 君	昭 日 大 門 部 土 木 科	哈 爾 濱 特 別 市 公 署 都 市 建 設 局 水 道 科

菊田 博君	昭10 仙臺高工	土木科
澤田 利夫君	昭9 日大工學部	土木科
志賀 豊君	昭10 仙臺高工	土木科
藤井 豊吉君	昭9 名古屋高工	土木科
山本 幸一君	昭9 神戶高工	土木科
伊藤 貞藏君	昭5 北海道帝大工學部	土木科
岸 忠男君	昭10 仙臺高工	土木科

衣川 守重君	昭9 山梨高工	土木科
古賀 正君	大9 藤立小倉工業學校機械科	土木科
佐藤 毅君	昭9 仙臺高工	土木科
白髭 宗雄君	昭9 九州帝大工學部	土木科
田淵 榮治君	昭10 神戶高工	土木科
二木 喜藏君	昭9 北海道帝大土木專門部	土木科
宮崎 正君	昭7 武藏高工	土木科

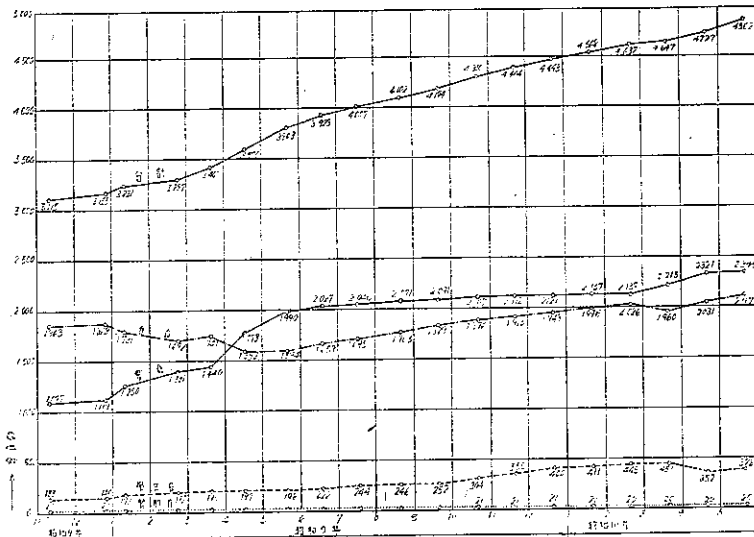
學 生 員

安部松之助君	日大 工學部	土木科
青木 富夫君	攻玉社 高工	土木科
井口 敬太郎君	九州 帝大工學部	土木科
伊藤 道夫君	東京 帝大	土木科
池田 吉次君	九州 帝大工學部	土木科
市川 正明君	" "	土木科
岩田 順治郎君	日大 工學部	土木科
岩 永義美君	九州 帝大工學部	土木科
上野 實昭君	" "	土木科
内田 芳夫君	攻玉社 高工	土木科
村澤 健夫君	仙臺 高工	土木科
渡本 清造君	九州 帝大工學部	土木科
岡山 浪雄君	" "	土木科
加藤 清雄君	日大 工學部	土木科
加藤 廣志君	名古屋 高工	土木科
弘君	" "	土木科
勝原 啓太君	九州 帝大工學部	土木科
久保 嘉男君	名古屋 高工	土木科

服部 正人君	九州 帝大工學部	土木科
黒岩 直君	" "	土木科
小林 正雄君	東京 帝大工學部	土木科
後藤 壯介君	" "	土木科
齋藤 松榮多君	仙臺 高工	土木科
菅根 季男君	名古屋 高工	土木科
瀨古 武彦君	" "	土木科
田代 信雄君	東京 帝大工學部	土木科
高田 光次郎君	九州 "	土木科
高野 源治君	名古屋 高工	土木科
棚橋 健五君	" "	土木科
千葉 直之君	仙臺 高工	土木科
内藤 史良君	名古屋 高工	土木科
中島 忠邦君	攻玉社 高工	土木科
中村 清照君	東京 帝大工學部	土木科
鍋島 滿雄君	關西 高工	土木科
仁平 照重君	攻玉社 高工	土木科
畑野 正君	東京 帝大工學部	土木科

林 一幹君	" "	土木科
林 友一君	名古屋 高工	土木科
日置 秀雄君	日大 工學部	土木科
廣瀬 貞幹君	名古屋 高工	土木科
福内 大正君	九州 帝大工學部	土木科
福本 成左衛門君	名古屋 高工	土木科
松尾 友也君	九州 帝大工學部	土木科
丸尾 順造君	" "	土木科
丸地 角衛君	名古屋 高工	土木科
矢野 二君	關西 高工	土木科
山添 鏡一君	名古屋 高工	土木科
横須賀 正君	仙臺 高工	土木科
吉開 正文君	九州 帝大工學部	土木科
林 柏 堅君	" "	土木科
萩野 福賀君	" "	土木科
種田 行男君	名古屋 高工	土木科
山田 順治君	北海道 帝大工學部	土木科

會員 移動 一覽 圖表



轉 格 之 部

杉本培吉君 平尾 昇君

安部康久君 高坂紫朗君
生島 肇君 佐藤健吉君
市浦 繁君 澤田克巳君
市來惟義君 柴垣清司君
内田 夔君 菅野 正君

深川彌太郎君

准

中山 滋君 平山實美君
松岡道男君 松垣 光君
松木昌治君

員

榎 修仁君 大淵登喜藏君
織田圭一君 奥田教朝君

杉江政直君 關 一雄君
谷垣 博君 外山 晃君

榎田周平君 和里田新平君
山東盛彦君

○交換又は寄贈を受けたる雑誌 (昭和 10 年 5 月中)

交 換

○道協會雜誌 第24卷
港 灣 第13卷 第5號
都市問題 第20卷 第5號
鐵 と 鋼 第21年 第4號
Proceedings VOL. 61
No. 4, Part 1
建築と社會 第18輯 第5號
業務研究資料 第23卷 第14號
日本動力協會會報別冊
(バンカー燃料)
工 政 第181號

水 道 協 會
港 灣 協 會
東京市政調査會
日本鐵鋼協會
American Society
of Civil Engineers.
日本建築協會
鐵道大臣官房研究
所
日本動力協會
工 政 會

電氣學會雜誌 第55卷 第5冊
機械學會誌 第38卷 第217號
衛生工業協會誌 第9卷 第4號
日本動力協會會
報別冊
日本建築士 第16卷 第5號
資 源 第5卷 第6號
土木業協會會報 第58號
業務研究資料 第23卷 第15號
日本鑛業會誌 第51卷 第601號

電 氣 學 會
機 械 學 會
衛 生 工 業 協 會
日 本 動 力 協 會
日 本 建 築 士 會
資 源 局
土 木 業 協 會
鐵 道 大 臣 官 房 研 究
所
日 本 鑛 業 會

寄 贈

電氣之友 第72卷 第805號
標準用語集 機械用語の部
三菱電機 第11卷 第2號
國立公園 第7卷 第5號
セメントコンク No. 29. 30
リート道路
道路の改良 第17卷 第5號
日立機械評論 第20號
工事畫報 第11卷 5號
Memoirs of VOL. 8 No. 4
the College of
Engineering
水曜會誌 第8卷 第7號
工業品規格統一 第6版
調査會概況
日本海と大阪灣とを結ぶ水運の聯絡
ローマ字世界 第35卷 第5號
都市問題 第20卷 第5號
東京工業大學學 第4卷 第4號
報

電氣之友社
資 源 局
三菱電機株式會社
國立公園協會
日本ポルトランド
セメント同業會道
路部
道路改良會
日立評論社
工事畫報社
京都帝國大學工學
部
水 曜 會
臨時産業合理局
田 邊 朔 郎
日本のローマ字社
東京市政調査會
東京工業大學

彈性變位と固體 昭和10年5月
摩擦
波狀磨耗を通じて軌條磨耗を見る
鑄 物 第7卷 第5號
日本鑛業會の五 昭和10年4月
十年
日本鑛業會誌總 明治43年(第299
目次 號)~昭和9年
596號)
東京土木建築業 第3卷 第4號
組合報
セメント界彙報 第336號
工 學 報 告 第11卷 第4號
耐熱合金鋼 B-23
利 根 第1卷 第5號
鐵 道 技 術 第9卷 第6號
帝國學士院紀事 第11卷 第4號
エンジンアー 第14卷 4月號
稻工會雜誌 第18號

前 橋 俊 一
前 橋 俊 一
日 本 鑄 物 協 會
日 本 鑄 業
日 本 鑛 業
東京土木建
會
日本ポルトランド
セメント同業會
東北帝國大學
日本ニツケル時報
局
利根製作營業所
鐵道技術社
帝國學士院
都市工學社
早稻田高等工學校
稻工會

河海工學第三編 地表水	君島八郎著	丸善株式會社	日立評論 國史學	第18卷 第5號 第9號	日立評論社 國史學會發行	高柳光壽
玉 會務彙報	工 第8卷 第3號 第42號	攻玉社玉工同窓會 日本土木建築請負 業聯合會	セメント工業 建築土木資料集 覽	昭和10年6月號 昭和10年版	セメント工業社 建築土木資料集覽 刊行會	
信 東京土木建築業 組合報	號 第8卷 第3號 第8卷 第5號	信 號 會 東京土木建築業組 合	工業現勢	第4卷 第5號	東京工業大學調查 部	

死亡會員

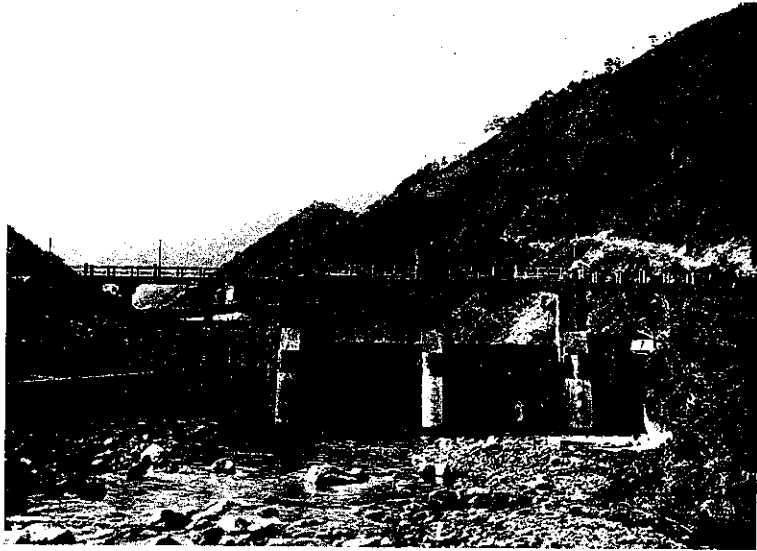
會員 野口廣衛君は昭和10年9月8日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

會員 宇田健二郎君 同大塚藤十郎君本會は兩君の訃報に接したり、恭しく哀悼の意を表す。

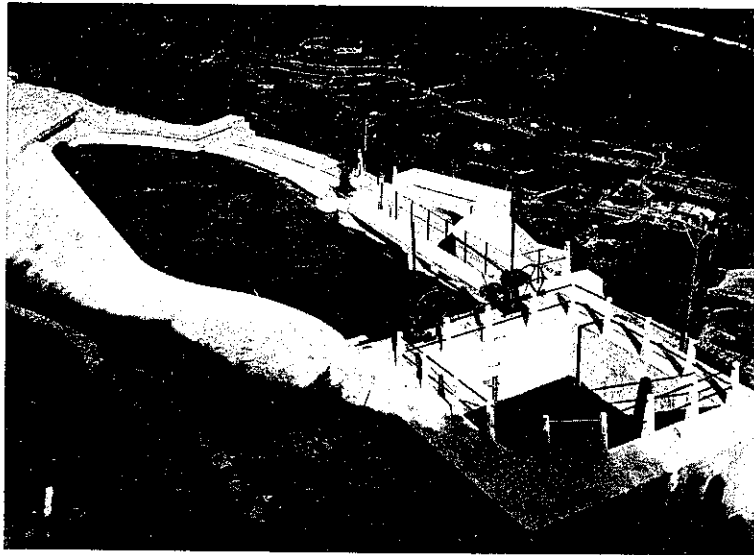
田迎發電所堰堤及び水槽

(昭和 10 年 3 月竣工)

堰 堤

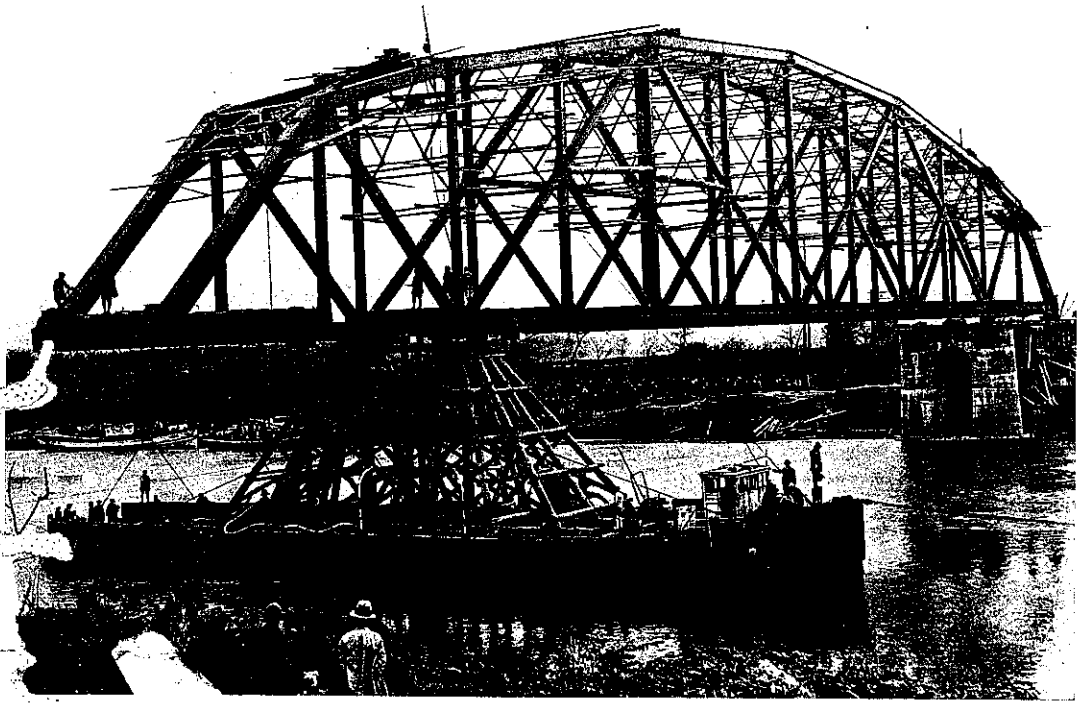


水 槽



(本號彙報欄 893 頁參照)

天鹽川橋梁浮船式構桁架設工事



梁は宗谷本線幌延驛より分岐する遠別線にあつて幌延驛より約 3 km 540 m
天鹽川に架設せられたものである。

橋 桁：支間 93.85 m 構桁 1 連, 19.2 m 鈹桁 10 連

延 長：292.6 m

架橋の日：昭和 10 年 5 月 29 日

開業年月日：昭和 10 年 6 月 30 日

會 告

映畫會開催通知

下記の通り映畫の會を催します。本映畫は鐵道省編纂の内でも優秀なるものを選び映寫することに致しました、この絶好の機會を逸せず御誘ひ合せ多數の御觀覽を希望致します。

1. 日 時 昭和 10 年 7 月 10 日 (水曜日) 午後 5 時より

2. 會 場 帝國鐵道協會 (麴町區丸ノ内 3 ノ 4)

3. 映畫番組

(1) 上越南線の測量及び土工工事實況 1 卷

(2) 木曾川、エレクトロントラス及びゴライヤスによる桁の架設實況 1 卷

(3) 益田川、操重車による桁の架設實況 1 卷

食 事 休 憩 ・ 40 分

(4) 會津線、線路引延し工事實況 1 卷

(5) 丹那隧道工事情況 3 卷

以上全卷トーカー

○食事は 1 圓 (飲物を除く) にて用意致します。(當日御持参のこと)

○御來會の有無 (映畫會並に食事) を來る 7 月 8 日までに御申出下さい。

故古市男爵記念事業に就て

日本工學會前々理事長故古市公威男爵を記念する事業が計畫せられ本會もその主唱者の 1 人として參與して居ります、而して資金募集の勧誘狀は發起人から會員各位に御送りした筈ですから何卒御賛同の上御寄附あらんことを切望致します。

土 木 學 會

會 告

下記用語調査會第 17 回幹事會案決定致し候間御意見候はゞ別紙相當欄
に御記入の上 7 月 15 日迄に當學會へ御返送相煩度此段得貴意候

用語調査會幹事長

各 位

第 17 回

用語調査會幹事會案

測量之部 (全部 85 語)

備 考

1. 用語調査會にて審議すべき用語を下記部門に分割し各擔當幹事を定む。
河川、水力電氣、上水道、下水道、水理、砂防、港灣、道路、軌道、都市計畫、材料及施工法、應用力學、
橋梁及構造物、鐵道、測量、土木機械
2. 本幹事會案は各擔當幹事が原案を作製し幹事分科會にて討議したる後幹事會にて之を審議し之等に就
き委員の意見を求め更に幹事會にて審議せるものなり。
3. 用語に適宜番號を附し且つ見出しは主名詞 (英語) の頭字を採り整理に便せり。
4. 用語は日、英、獨、佛の 4 箇國語とし獨逸語の頭字は大字となす。
5. 各國語中 2 種以上ある場合重要なるものより書き下し餘り重要ならざる語は () 中に入るゝこと。
6. 獨、佛兩國語の性別には (m), (f), (n) を用ふ。
7. 用語中にある假名は平假名として定義解釋中にあるものは片假名とす。
8. 定義解釋中「」内の語は用語として別に定義解釋せられあるものなり。

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 1 A	日	調 整	器械ノ不整ヲ直スコト	
	英	adjustment		
	獨	Adjustierung (<i>f</i>)		
	佛	ajustage (<i>m</i>)		
No. 2 A	日	角	二測線間ノ角	
	英	angle		
	獨	Winkel (<i>m</i>)		
	佛	angle (<i>m</i>)		
No. 3 A	日	偏 角	一測線ノ延長線ト相隣 ル測線トノ間ノ角	
	英	deflection angle		
	獨	Ausschlagwinkel (<i>m</i>)		
	佛	angle (<i>m</i>) de deviation		
No. 4 A	日	子 午 角	一線ガ「子午線」トナス 水平角	
	英	meridian angle (azimuth)		
	獨	Meridian (<i>m</i>) (Azimut (<i>m</i>))		
	佛	angle (<i>m</i>) meridien (azimut (<i>m</i>))		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. B	日	測量平均法	「測量」ノ「誤差」ヲ合理的ニ配分スルコト	
	英	balancing		
	獨	Erhaltung (<i>f</i>) des Gleichgewichts		
	佛	balancement (<i>m</i>)		
No. B	日	基 線	「三角測量」ニ於テ長サヲ實測スル基準ノ測線	
	英	base line		
	獨	Standlinie (<i>f</i>)		
	佛	ligne (<i>f</i>) de base		
No. 7 B	日	方 位	基準方向ニ關スル一測線ノ方向	
	英	bearing		
	獨	Peilung (<i>f</i>)		
	佛	relèvement (<i>m</i>)		
No. 8 C	日	天 球	天體ヲ投射スル假想ノ單位球	
	英	celestial sphere		
	獨	Himmelskugel (<i>f</i>)		
	佛	sphère (<i>f</i>) céleste		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 9 C	日	ち え - ん	長サヲ測ルニ用フル目盛ヲ附シタル鎖	
	英	(measuring) chain (engineer's) chain (surveyor's) chain		
	獨	Messkette (<i>f</i>)		
	佛	chaîne(<i>f</i>) levée		
No. 10 C	日	周 極 星	兩極ノ周圍ニアル星	
	英	circumpolar star		
	獨	Cirkumpolarstern (<i>m</i>)		
	佛	étoile (<i>f</i>) circompolaire		
No. 11 T	日	折 線 とらば-す	開又ハ閉多角形ヲナセル測線	
	英	traverse		
	獨	Kurse (<i>f</i>)		
	佛	routes (<i>f</i>)		
No. 12 C	日	閉 合 比	「とらば-す」ノ「閉差」ト全測線長トノ比	
	英	ratio of closure		
	獨	geschlossen Verhältniss (<i>n</i>)		
	佛	raison de rapport (<i>m</i>)		

測量之部

種別	用語		定義解釋	會員意見
No. 13 C	日	こんばす	磁針ヲ有スル測角器	
	英	compass		
	獨	Bussole (<i>f</i>) Kompass (<i>m</i>)		
	佛	boussole (<i>f</i>)		
No. 14 C	日	掛こんばす	測繩又ハちえーんニ掛ケテ坑内測線ノ「方位」ヲ測ル器械	
	英	hanging compass		
	獨	Hängekompass (<i>m</i>)		
	佛	compass (<i>m</i>) renversé		
No. 15 C	日	鑛山こんばす	「規板」ノ他ニ「望遠鏡」ヲ有シ坑内ニ於テ「方位」ヲ測定スル器械	
	英	miner's compass dial compass simply dial		
	獨	Hängekompass (<i>m</i>) des Markscheiders		
	佛	boussole (<i>f</i>) de mineur poche (<i>f</i>) de mineur		
No. 16 C	日	等高線	或ル厚サノ「水平面」ト地面トノ切口	
	英	contour		
	獨	Kontour (<i>f</i>)		
	佛	contour (<i>m</i>)		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 17 C	日	曲線設置	路線ノ屈折部=曲線ヲ 測定設置スルコト	
	英	curve setting		
	獨	Kurveversetzen (<i>f</i>)		
	佛	courbe (<i>f</i>) mise		
No. 18 D	日	基準面(線)	「高低測量」=於テ基準 トスル高サ零ノ「水平 面(線)」	
	英	datum		
	獨	Grundebene (<i>f</i>) Standebene (<i>f</i>)		
	佛	plan (<i>m</i>) de comparaison plan (<i>m</i>) de niveau		
No. 19 D	日	赤 緯	「天球」ノ赤道ト該天體 トガ地球ノ中心=於テ ナス角度	
	英	declination		
	獨	astromische Abweich ung (<i>f</i>) Deklination (<i>f</i>)		
	佛	déclination (<i>f</i>)		
No. 20 D	日	偏 差	磁北ガ眞北ヨリ偏倚ス ル水平角	
	英	magnetic declination		
	獨	Nadeldeklination (<i>f</i>) Missweisung (<i>f</i>)		
	佛	déclination (<i>f</i>) magnétique		

測量之部

種別	用語		定義解釋	會員意見
No. 21 D	日	經 距	「子午線」カラ直角=測 ツタ直線距離	
	英	departure		
	獨	Abszisse (<i>f</i>)		
	佛	abscissa (<i>f</i>)		
No. 22 E	日	黃 道	「天球」ノ上=太陽ガ晝 ク軌跡	
	英	ecliptic		
	獨	Ekliptik (<i>f</i>)		
	佛	ecliptique (<i>f</i>)		
No. 23 E	日	離 隔	天體ガ「子午線」面=對 シ東西ノ兩極位=アル コト	
	英	elongation		
	獨	Ausweichung (<i>f</i>)		
	佛	élongation (<i>f</i>)		
No. 24 E	日	誤 差	觀測値ト眞ノ値トノ差	
	英	error		
	獨	Fehler (<i>m</i>)		
	佛	erreur (<i>f</i>)		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 25 E	日	閉 差	閉多角形が閉合セザル 「誤差」	
	英	error of closure		
	獨	Schlussfehler (<i>m</i>)		
	佛	erreur (<i>f</i>) ferme		
No. 26 E	日	償 差	實測値が眞値=對シ過 不足トナル「誤差」	
	英	compensating error		
	獨	Ausgleichungsfehler (<i>m</i>)		
	佛	erreur (<i>f</i>) compensatoisé		
No. 27 E	日	個 人 差	各個人特有ノ性質=ヨ ル「誤差」	
	英	personal error		
	獨	persönliche Gleichung (<i>f</i>)		
	佛	equation (<i>f</i>) personelle		
No. 28 E	日	推 差	其ノ「誤差」ヨリ小ナル 「誤差」が生ズル確率が 1/2 =等シイ「誤差」	
	英	probable error		
	獨	wahrscheinliche Fehler (<i>m</i>)		
	佛	erreur (<i>f</i>) probable		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 29 R	日	殘 差	數回ノ觀測値ノ算術平均値ト各觀測値トノ差	
	英	reside		
	獨	scheinbaren Fehler (<i>m</i>)		
	佛	résiduel (<i>m</i>)		
No. 30 E	日	對 眼 鏡	望遠鏡ノ觀測者側ノれんす	
	英	eye-piece		
	獨	Okular (<i>n</i>)		
	佛	oculaire (<i>m</i>)		
No. 31 F	日	野 帳	「外業」=於テ使用スル手帳	
	英	field book		
	獨	Messbuch (<i>n</i>)		
	佛	carnet d'opérations (<i>m</i>)		
No. 32 F	日	外 業	實測作業	
	英	field work		
	獨	Feldwerk (<i>n</i>) Feldschanze (<i>f</i>)		
	佛	ouvrage (<i>m</i>) de campagne travail (<i>m</i>) sur le terrain		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 33 F	日	焦 準 規 ひ	觀測物 = 焦點ヲ合ハセ ルコト	
	英	focussing		
	獨	Einstellung (<i>m</i>)		
	佛	mise (<i>f</i>) au point		
No. 34 H	日	時 圓	天軸ヲ含ミ赤道 = 直角 ナル時間ヲ測ル大圓	
	英	hour circle		
	獨	Stundenkreis (<i>m</i>) Stundenzirkel (<i>m</i>)		
	佛	cercle (<i>m</i>) horaire		
No. 35 I	日	指 鏡	六分儀ノ分度弧ノ中心 ニアル弧面 = 直角ナル 鏡 (水平鏡ト伴フテ二 點間ノ角ヲ測ル = 用 フ)	
	英	index glass		
	獨	zeiger Glas (<i>n</i>)		
	佛	index-verre (<i>m</i>)		
No. 36 L	日	緯 度 緯 距	緯度: 觀測者ノ「子 午線」 = 於テ赤 道ヨリ北或ハ南 = 測リタル角距 離 緯距: 「子午線」 = 平行 ナ直線距離	
	英	latitude		
	獨	Breite (<i>f</i>)		
	佛	latitude (<i>f</i>)		

測 量 之 部

種別	用 語	定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 37 L	日 れつと綱	深淺測量 = 使用スル 「測條」	
	英 lead line		
	獨 Senkelschnur (<i>f</i>) Bleischnur (<i>f</i>)		
	佛 fil (<i>m</i>) à sonde		
No. 38 L	日 水 準 儀 れ べ る	高低ヲ測定スル測器	
	英 level		
	獨 Nivellierinstrument (<i>n</i>) Libelle (<i>f</i>)		
	佛 niveau (<i>m</i>)		
No. 39 L	日 短肥水準儀 短肥れべる	「望遠鏡」ガ支柱 = 固着 セル「水準儀」	
	英 dumpy level		
	獨 teleskop Libelle (<i>f</i>)		
	佛 niveau (<i>m</i>) à lunette lunette fixe		
No. 40 L	日 Y形水準儀 わいれべる	「望遠鏡」ヲ二個ノY形 支架 = ヨリ支へ取外シ 自在ナル「水準儀」	
	英 Y level		
	獨 Y Libelle (<i>f</i>)		
	佛 niveau (<i>m</i>) à lunette lunette (<i>f</i>) mobile dans des étriers		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 41 L	日	水 平 面	重力ノ方向=垂直ナル 曲面	
	英	level surface		
	獨	Niveaufläche (<i>f</i>)		
	佛	surface (<i>f</i>) de niveau		
No. 42 L	日	整 準 ね ぢ	測量器械水平盤ヲ水平 =スル「調整」ねぢ	
	英	leveling screw		
	獨	bawägen Kopf (<i>m</i>) Nivellierschimbe (<i>f</i>)		
	佛	vis de calage (<i>f</i>)		
No. 43 L	日	經 度 距 横 距	經度：基準「子午線 (面)」ト觀測者 ノ「子午線(面)」 トノナス赤道弧 ノ角距離 横距：測線ノ中點ヨリ 「子午線」又ハ假 「子午線」=下セ ル垂線ノ長サ	
	英	longitude		
	獨	Länge (<i>f</i>)		
	佛	longitude (<i>f</i>)		
No. 44 M	日	磁 針		
	英	magnetic needle		
	獨	magnetische Nadel (<i>f</i>)		
	佛	aiguille (<i>f</i>) aimantée		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 45 M	日	測 桿	距離測定用ノ桿	
	英	measuring rod		
	獨	Messrute (<i>f</i>) Messstange (<i>f</i>)		
	佛	règle (<i>f</i>)		
No. 46 M	日	子 午 線	測者ノ「天頂」ト兩極 トヲ含ム大圓	
	英	meridian		
	獨	Meridian (<i>m</i>)		
	佛	méridien (<i>m</i>)		
No. 47 O	日	觀 測	器械ヲ用ヒテ測定スル コト	
	英	observation		
	獨	Beobachtung (<i>f</i>)		
	佛	observation (<i>f</i>)		
No. 48 O	日	條 件 觀 測	「觀測」ノ結果ガ満足ス ベキ理論上ノ條件ヲ有 スル「觀測」	
	英	conditional observation		
	獨	bedingt Beobachtung (<i>f</i>)		
	佛	observation (<i>f</i>) conditionelle		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 49 O	日	内 業	「外業」ニテ得タル資料 ニヨリ計算製圖スルコ ト	
	英	office work		
	獨	Amtwerk (<i>n</i>)		
	佛	ouvrage (<i>m</i>) en bureau		
No. 50 O	日	支 距	主測線ノ左右ニアル點 ノ主測線ニ到ル距離	
	英	offset		
	獨	absatz (<i>m</i>)		
	佛	recouplement (<i>m</i>)		
No. 51 P	日	縮 圖 器	原圖ヲ縮少スル器械	
	英	pantograph		
	獨	Stovchschnabel (<i>m</i>)		
	佛	pantographe (<i>m</i>)		
No. 52 P	日	視 差	「轉鏡儀」ニアリテハ 物體ノ像ガ對物鏡ト接 眼鏡トノ通焦點ニナキ 時又線上ノ動搖ニヨル 「誤差」, 六分儀ニ アリテハ物體ノ像ガ指鏡 ヨリ水平鏡ニ反射シテ 肉眼ニ入ル時ニ生ズル 「誤差」, 太陽觀測ニ 於テハ地表ヨリ太陽ヲ 見タル方向ト地球ノ中 心ヨリ見タル方向トノ 「誤差」ヲ云フ	
	英	parallax		
	獨	Parallaxse (<i>f</i>)		
	佛	parallaxe (<i>f</i>)		

測量之部

種別	用語	定義解釋	會員意見
No. 53 P	日 平 板	指方規ヲ用ヒテ直チニ 紙面ニ測圖スル水平測 板	
	英 plane table		
	獨 Messtisch (m)		
	佛 planchette (f)		
No. 54 P	日 ぶらにめ-た-	圖上ニテ面積ヲ測ル器 械	
	英 planimeter		
	獨 Flächenmesser (m)		
	佛 planimètre (f)		
No. 55 P	日 錘 子 下 げ 振 り 錘	「錘糸」ノ下端ニ下ゲル 重錘	
	英 plumb bob		
	獨 Senkel (m)		
	佛 plomb (m) de sonde		
No. 56 P	日 錘 糸 下 げ 振 り 糸	下端ニ重錘ヲ垂下スル 糸	
	英 plumb line		
	獨 Senkelfaden (m)		
	佛 fil (m) à plomb (m)		

測 量 之 部

種別	用 語	定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 57 P	日 ぼ - る	測點ノ位置又ハ線ノ方向ヲ示スニ用フル赤白ニ塗り分ケタ丸棒	
	英 pole		
	獨 Richtstange (<i>f</i>) Absteckstab (<i>m</i>)		
	佛 jalon (<i>m</i>) mire (<i>f</i>)		
No. 58 R	日 選 點 踏 査	本測=先ダテ豫メ其地形ノ大體ヲ見ツ、之ニ要スル測器ト測點及測線ヲ置ク所ヲ大略決定スル作業	
	英 reconnaissance		
	獨 Rekognoszierung (<i>f</i>)		
	佛 reconnaissance (<i>f</i>)		
No. 59 R	日 赤 經	「春分點」ヲ通ル「子午線」ヨリ東方ニ於テ之ト天體ノ「子午線」トガ北極ニ於テ成ス角	
	英 right ascension		
	獨 Rektaszension (<i>f</i>)		
	佛 ascension (<i>f</i>) droite		
No. 60 S	日 縮 尺	圖上ノ長サヲ表ハス尺度	
	英 scale		
	獨 Skala (<i>f</i>)		
	佛 échell (<i>f</i>)		

測量之部

種別	用語		定義解釋	會員意見
No. 61 S	日	函準尺 尺	「高低測量」又ハ視距測量ニ使用スル目盛ヲ附セル函型ノ度器	
	英	staff		
	獨	Nivellierlatten (<i>f</i>)		
	佛	mire (<i>f</i>)		
No. 62 S	日	移心	三脚ヲ据ヘタ後僅カニ下振ヲ動シテ測點ヲ器心ニ重ネルコト	
	英	shifting centre		
	獨	Fortrückung (<i>f</i>) des Centrum		
	佛	deplacement de centre (<i>m</i>)		
No. 63 S	日	視線	眼ト目標トヲ結ブ線	
	英	sight line		
	獨	Visierlinie (<i>f</i>)		
	佛	rayon (<i>m</i>) visuel ligne (<i>f</i>) de visée d'une lunette		
No. 64 S	日	覘板	「平板」ノ指方規又ハ「こんばす」ニ附属セル覘孔ヲ有スル板	
	英	sight vane		
	獨	Dioptrlinel (<i>n</i>)		
	佛	alidade à pinnules (<i>f</i>)		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 65 T	日	覘 標	觀測ノ際 = 覘フ目標	
	英	target		
	獨	Zielpunkt (<i>m</i>)		
	佛	voyant (<i>m</i>) cible (<i>f</i>)		
No. 66 S	日	測 點	測點 = 於テ其ノ位置ヲ 決定スベキ點	
	英	station mark		
	獨	Markzeichen (<i>n</i>)		
	佛	repère (<i>m</i>) station (<i>f</i>)		
No. 67 S	日	測 量	點ノ位置及運動等ヲ測 定スルコト	
	英	survey		
	獨	Vermessung (<i>f</i>)		
	佛	levé (<i>m</i>) de plans		
No. 68 L	日	水準測量 高低測量	點ノ高低差ヲ測ル測量	
	英	leveling		
	獨	Nivellierung (<i>f</i>)		
	佛	nivellement (<i>m</i>)		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 69 T	日	三角測量	三角網ヲ組ミー邊ノ長サト他ノ凡テノ角ヲ測定シテ點ノ位置ヲ決定スル「測量」	
	英	triangulation		
	獨	Triangulierung (<i>f</i>)		
	佛	triangulation (<i>f</i>)		
No. 70 S	日	地下測量	隧道内又ハ坑道ノ如キ地下ノ位置ヲ測ル「測量」	
	英	underground survey		
	獨	Grubenmessung (<i>f</i>) Markscheiderzug (<i>m</i>)		
	佛	levé sousterrain (<i>m</i>)		
No. 71 S	日	測量術	「測量」ノ技術	
	英	surveying		
	獨	Feldmesskunst (<i>f</i>) Feldmesskunde (<i>f</i>)		
	佛	arpentage (<i>m</i>)		
No. 72 T	日	時 刻	某降時ニ於ケル時刻トハ天體ガ其ノ地ノ「子午線」ニ於テ正中セン後經過シタル時間ヲ云フ	
	英	time		
	獨	Zeit (<i>f</i>)		
	佛	temps (<i>m</i>)		

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 73 T	日	常 用 時	日常使用スル平均「太陽時」	
	英	civil time		
	獨	bürgerliche Zeit (<i>f</i>)		
	佛	temps civil (<i>m</i>)		
No. 74 T	日	時 差 率	眞太陽ノ時(角)ト平均太陽ノ時(角)トノ差	
	英	equation of time		
	獨	Zeitgleichung (<i>f</i>)		
	佛	équation (<i>f</i>) du temps		
No. 75 T	日	恒 星 時	或ル「子午線」ニ於ケル春分ノ時角ヲイフ	
	英	sidereal time		
	獨	Sternenzeit (<i>f</i>)		
	佛	temps (<i>m</i>) sidéraux		
No. 76 T	日	太 陽 時	アル瞬間ノ太陽ノ中心ノ時角ヲイフ	
	英	solar time		
	獨	Sonnenzeit (<i>f</i>)		
	佛	temps (<i>m</i>) solaire		

種別	用語		定義解釋	會員意見
No. 77 T	日	標準時	適宜ノ地域内ニ於テ共用スルーツノ地方平時	
	英	standard time		
	獨	Normalzeit (<i>f</i>)		
	佛	temps (<i>m</i>) normale		
No. 78 T	日	卷尺	丸型ノ函ニ捲込ム細長キ帶狀ノ度器	
	英	tape		
	獨	Messband (<i>n</i>) Bandmass (<i>n</i>)		
	佛	ruban (<i>m</i>) mesure		
No. 79 T	日	望遠鏡	對物鏡ト對眼鏡トヲ備ヘ鏡管ノ伸縮ニヨリ遠方ノ物體ヲ擴大明視シ得ル裝置	
	英	telescope		
	獨	Fernrohr (<i>n</i>) Teleskop (<i>n</i>)		
	佛	lunette (<i>f</i>) téléscope (<i>m</i>)		
No. 80 T	日	驗潮器	潮位ヲ測ル尺度	
	英	tide guage		
	獨	Flutmesser (<i>m</i>)		
	佛	maréograph (<i>m</i>)		

種別
No. 81 T
No. 82 T
No. 83 V
No. 84 V

測 量 之 部

種別	用 語		定 義 解 釋	會 員 意 見
No. 81 T	日	繫 線	測鎖「測量」=於テ相 交ハルニ邊上ノ適當ノ 點ヲ結ブ線	
	英	tie line		
	獨	Band (<i>n</i>)		
	佛	lien (<i>m</i>)		
No. 82 T	日	轉 鏡 儀 とらんしつと	反轉シ得ル「望遠鏡」 ヲ具スル測角器	
	英	transit		
	獨	Theodolit (<i>m</i>)		
	佛	cercle d'alignement (<i>m</i>)		
No. 83 V	日	遊 標	主尺=沿フテ滑動シ主 尺ノ一目盛ヲ更ニ細カ ク讀得ル度器	
	英	vernier		
	獨	Vernier (<i>m</i>)		
	佛	vernier (<i>m</i>)		
No. 84 V	日	春 分 點	太陽ガ「天球」ノ赤道ヲ 南ヨリ北ヘ横過スル點 ヲイフ	
	英	vernal equinox		
	獨	Frühlingsäquinoktium(<i>n</i>)		
	佛	équinoxe (<i>m</i>) de printemps		

測量之部

種別	用語		定義解釋	會員意見
No. 85 Z	日	天頂	觀測地點ヲ通ル鉛直線 が「天球」ヲ貫ク點	
	英	zenith		
	獨	Zenith (<i>m</i>) Scheitelpunkt (<i>m</i>)		
	佛	zénith (<i>m</i>)		

寄稿に関する注意

1. 用紙: 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁数: 頁数は本會の原稿用紙 180 枚 (本會誌 30 頁) 以内とされ度し。若し前記頁数を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文體: 文體は文章的口語體とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當に字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書體: 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は日本式ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 算式標準: (1) 本文文字間に挿入する算式は
例へば a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避け、 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
(2) 數字
數字は 3 桁毎に間隔を多ける事。名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。例へば
35 錢 (三十五錢), 13.56 圓 (十三圓五十六錢), 1~4 時間 (一時間乃至四時間),
88326 t (八萬八千三百二十六吨), 1935 年 1 月 1 日 (千九百三十五年一月一日),
m (米), m³ (立方米), kg (賤), l (立), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
 6. 用語: 應用力學及コンクリート用語は工學會決定用語を使用され度し (應用力學用語は本誌第 19 卷第 5 號, コンクリート用語は第 20 卷第 6 號會告参照)。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 圖表: (1) 圖表には圖表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ (黄色、赤色の野は使用せざる事) 縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 圖表の文字、數字は特に大きく書かれ度し (縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し)。
(7) 圖表類は製版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞: 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他: (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 論說報告には必ず冒頭に英文表題及び邦文内容梗概並に著者の職名及び勤務所名を添附され度し。
- 附記: (1) 論說報告、彙報、參考資料及び工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈致します。尙 20 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

會 告

圖書御寄贈の御願ひ

本會は目下本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備する計畫を進めてありますが、現在所有の圖書は甚だ僅少なる爲、會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

雜誌閱覽に就て

本會所有の圖書及び雜誌は本會事務所に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閱覽下さい。

平日自午前9時至午後8時、土曜日自午前9時至午後4時、但し日曜日及び祭日休。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してあります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 徑 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(實物大)

會員轉居轉勤の場合の注意

會員の御轉居又は御轉勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會費	會員種格	會費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
	會員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
	准員	金 9 圓	金 4.50 圓	金 4.50 圓
	學生員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新入會者は月割計算とす。

納期 第1期分：3月 第2期分：9月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滯納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一應本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
	5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(円) 1.00
	6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
	7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
	8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
	9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
	10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
	11	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
	12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
	13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
	14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
	15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
	16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
	17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	1.00
	18	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
	19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
	20	*	*	*	*	—	*	*	*	—	*	*	*	1.00
	21	—	*	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	1.00
	第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
	東京市内外交通に関する調査書													3.00
	震害調査報告書(1, 2, 3)													18.00
	應用力学聯合大會講演集													1.00
	鐵筋コンクリート標準示方書													0.50
	同上 解説													1.00
	土木工學論文抄録													3.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 圓	1 回半頁	20 圓
指定廣告	裏表紙 3 面對 向及廣告初頁		1 回 1 頁	40 圓
	裏表紙 3 面		1 回 1 頁	70 圓
	色アート		1 回 1 頁	60 圓

- 指定廣告は凡て1箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXI, NO. 6, JUNE, 1935.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	51
Addresses.	
Land Survey from the Air. <i>By Kunihiro Sino, B.S.</i>	747
On the Earthquake Motion. <i>By Mishio Ishimoto, Dr. Sc.</i>	757
Papers.	
On the Breakage of Cement Mortar due to the Impact of Rifle Bullets. <i>By Takeo Fukuda, Dr. Eng., Member.</i>	767
Experimental Investigation on Several Methods to increase Stability of Retaining Walls. <i>By Haruo Matuo, C.E., Member</i>	797
On the Tower of the Strauss-type Bascule Bridge with Vertical Overhead Counterweight. <i>By Masaru Yasumi, C.E., Member</i>	819
On "Speed Curve" applied to the New Line. <i>By Shigenari Ôisi C.E., Assoc. Member,</i> <i>Syôtarô Hagino C.E., Assoc. Member</i>	829
Discussions.	883
Notes on Matters of Interest.	889
Patent News.	899
Abstracts of Selected Articles.	903

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.